



日本道経会

2

No. 291

月号

本会の目的

本会は、「道徳経済一体」の理念に基づき、産業人教育の推進ならびに繁栄と永続の企業の創造につとめ、経済倫理の確立および経済界の安定的発展に寄与し、地球市民の一員として社会に貢献することを目的としています。

日本道経会会員社数 / 互敬塾塾生
732社 / 512名

(令和6年2月1日現在)

巻頭言

道経一体経営の取り組み

日本道経会理事 大阪支部所属
株式会社丸福 代表取締役

福田 靖久



一昨年より、理事になりました大阪支部所属の福田です。微力ながら日本道経会の発展の為にお役に立てればと思います。

日本道経会は弊社の父の代からの会員です。14年前に赤字が続く中、弊社の代表を受け、事業の承継、企業経営の難しさを感じながら、収益を上げ、いい会社にするにはどうすればいいのか、弊社は価格競争が激しい中、収益性が低く、御用聞きのような営業スタイル、お客様にとって必要とされている会社なのか、父が築き上げた信用をどうすればいいのかと、模索の日々が続きました。

将来の展望が見えない状況の中、船井総研とのご縁があって、一部の商品であったシーズニング（粉体調味料）をモラロジーのご先輩のアドバイスもあり、業務用の商品

を少量多品種受注生産でHPを使った販売に乗り出しました。お客様のニーズにあった味の開発に力を注ぎ、少量での開発がお客様に喜ばれ、お客様にとって必要な会社に変化してきました。収益の改善が進みましたが、日本道経会での学びの中で、「三方よしの経営」が出来ているのか?社員やお客様、地域社会に喜んでいただける会社には、まだまだ程遠いことを、日本道経会の経営者の皆さんからの講演や触れ合う中で気づきを頂いて、少しでもいい会社を目指して、日々反省しながら進んでいるところです。

婿養子が会社を引き継いでくれる事になり、互敬塾のメンバーに育てていただいています。私たちが先輩経営者から育てていただいたつながりがこの日本道経会で根付いています。創業者の父の想い、三方よしの価値観を次の世代に引き継ぐことが、私の大きな使命と感じ、恩送りをしていきたいと思います。

東京支部1月例会・新春経済講演会

令和6年1月18日(木)、新宿の京王プラザホテルにて、東京大学名誉教授・工学博士の月尾嘉男氏をお招きし、『日本の産業の基盤 中小企業』と題して新春経済講演会を開催しました。月刊誌『三方よし経営』にも連載されておられる教授のご講演をとても楽しみにしておりました。

「日本が発展するために日本の中小企業が必要」と講演は始まったものの、近未来の日本はGDPが30番代に落ちてしまう可能性があり、その理由として、人口の半減、出生率の低下、高齢化、食糧自給率の低さ、就農人口・耕作地の低下、エネルギー自給率の低下をはじめ、貧困者・生活保護世帯の増加、政府債務高世界一、国債残高の多さ、男女格差指数の低さ、デジタル競争力の低さ、留学生受け入れ数の低下、科学技術論文引用率の低下、大学順位の低下、1人当たりのGDPの低下、ベンチャーユニコーン企業数の少なさ、企業時価総額の低下等々、国際競争力は1992年に1位だったのが現在35位など目を覆いたくなる事実を統計グラフによって突きつけられました。

聴講者が落ち込む中、月尾先生は「皆さん、ニッコリしてください」というお言葉を境に、排他的経済水域を領土に含めると陸地の23倍あり、その水域の天然資源の主導的権利を持つ、パスポートのVISAなし渡航可能国数トップ、人的資本指数世界3位、外国旅行者数・国際観光収入増加中、GDPに占める研究開発費世界3位、高等教育履修率世界2位、学習到達度世界1位、平均寿命・

健康寿命世界1位、殺人発生率の少なさ・悲惨指数少なさ(失業率+物価上昇率)世界3位などと、日本の優位性をこれまた統計グラフで示してください希望の光が見えた所で、日本には中小企業がある。中小企業数は、大企業0.3%に対し99.7%、世界シェアを高く持つ企業が多数あり、ものづくり企業の海外売上比率は高く、グローバルニッチトップ企業を列举され、そして、日本には長寿企業が多数存在し、創業100年以上企業は世界の41%を占め1位、200年以上は世界5,586社中3,146社の圧倒的割合を占め1位であり、その中500年以上32社、1000年以上は7社もあり、それらのほとんどが中小企業であると述べられました。

道経一体、人づくり、永続企業を目指す日本道経会に学ぶ私たち中小企業が日本経済の基盤であり、日本をけん引していくなければならないことを再確認した講演となりました。

※当講演会の動画を、2月1日から末日まで、日本道経会会員専用サイトから視聴できます。

組織部会長 井上 丈彦



島根支部 10月度企業視察研修会



令和5年10月16日(月)～18日(水)に東北・岩手県の株式会社小松製菓様を訪問させて頂きました。

岩手の北部、目の前が青森という県境近く。二戸市の本社へ訪問。まず驚いたのは本社周辺が「南部煎餅の里」を作り、創業者「小松シキ記念館」を中心に工場・ショップ・歴史館、更に来場者と祈りを共にする光輪聖観世音菩薩を建立されていること。小松シキさんの創業の苦難の道や割れ煎餅を

提案しヒット商品としたドラマ等。

小松製菓の魂、シキさんの「家運を立て替えること」を始めとする凄まじいほどの熱量による私的なる「マグマ」を感じた上に、商品である「南部煎餅」の「形に拘り続ける」という姿から「割れた南部煎餅・割れ煎餅」を作ってしまったという度肝を抜いたような経緯は私たちにとって超インパクトを頂き、学ばせて頂きました

大切に守る物は守り、そして新たなものを作る柔軟性と熱意を大いに学びました。

日本道経会島根支部全員には素晴らしい感動・感激そして学びの視察研修でした。

小松豊社長様をはじめ皆々様に心から感謝とお礼を申し上げます。

代表幹事 田中 正彦



新年例会

令和6年1月22日（月）に大阪梅田の新阪急ホテルにて大阪支部新年例会を行いました。講師は、三重支部代表幹事で、日本道経会常任監事でもある、株式会社シンコー社長の鈴木規子氏をお招きしました。当日は32名が参加されました。講演終了後、恒例の懇親会が開催され和やかなひと時を過ごしました。

鈴木講師のお話は、氏が会社経営を引き継ぐことになった経緯、会社と共に家を受け継ぐことになった事、創業者の祖父と父の思いを引き継ぐが、女性ならではのハードルが高かったことなどもお話しいただきました。

実際に会社を引き継ぐと、進出先の中国で技術を模倣され、拳銃に激しい値下げ攻勢にさらされ原価割れを起こした際に、如何にそれを切り抜けていったか。何とか注文を取りたいと思ったが、先代の父から、「自分が開発したものは過去のもの。これから必要とされるものを開発していくことが大事。会社は大きくしようとするのではなく、必要とされれば大きくなる。」と、中国市场にしがみついている自分を大いに反省した。注文をなんとかしてとりたいという利己心に安心や幸福はなかったことに気が付いた。今回のテーマは「変化に強い体質づくり」はこの経験から、「順応しつつ真理を守るものは残る社会の変化に順応しつつ、お客様の要求に応える。そして社員の幸せを守る。」というまとめでした。

懇親会では、講師への追加質問等の他に、ご高齢のため当日をもって卒業（退会）される有限会社藤田通信サービスセンターの藤田秋男氏のお別れのスピーチ、月刊『三方よし経営』2月号に掲載されている株式会社アーク・スリー・インターナショナルの大濱啓二氏の掲載の経緯等のお話もあり、新年にふさわしくも和やかにひと時を過ごしました。

大阪・兵庫互敬塾
一般財団法人SF豊泉家 高谷 嘉一





長崎支部 例会

長崎支部の12月忘年例会が令和5年12月21日(木)に長崎新聞文化ホールアストピアにて開催されました。上田代表幹事からは、過去の振り返りを明日の前進の糧にしていただきたい、たまには仕事や数字に惑わされず、生きていることに感謝して幸せを真剣に考えましょう、と挨拶がありました。その後「ウェルビーイング経営～従業員と社会を幸せにする経営とは!?～」と題して慶應義塾大学院教授の前野隆司氏と、その奥様の前野マドカ氏の講演がありました。

人を育てる仕事をしたいと幸せの研究を始めた前野隆司氏は、社員が幸せに働く経営ができれば、働きかた改革も人的資源も日本道経会を目指す社会に役立つ経営もうまくいくと語ります。

WHOの健康の定義では、ウェルビーイングとは身体精神社会的に良好な状態のことだとされています。幸せの要素として他にも視野の広さ、チャレンジ精神、協調性、やる気、思いやりなどもあげられます。面白いことにアンケートを取ると、幸せな人は利他的な傾向が高く、不幸せな人は利己的な傾向が高いそうです。隆司氏は、人のために尽くす人は幸せな人だと結論づけます。

心の良い状態というものがいかに倫理的経営と密接な関係があるか、倫理的生き方とウェルビーイングと幸せとは非常に近いということについて話が進みます。社員の幸福度とパフォーマンスについても幸福度の高い社員は創造性が3倍、生産性は31%、売り上げは37%高い数字もあります。幸せな人は長寿でもあります。カーネマンの研究によると、一定の年収を超えると感情的幸福と年収に相関はないことがわかっています。

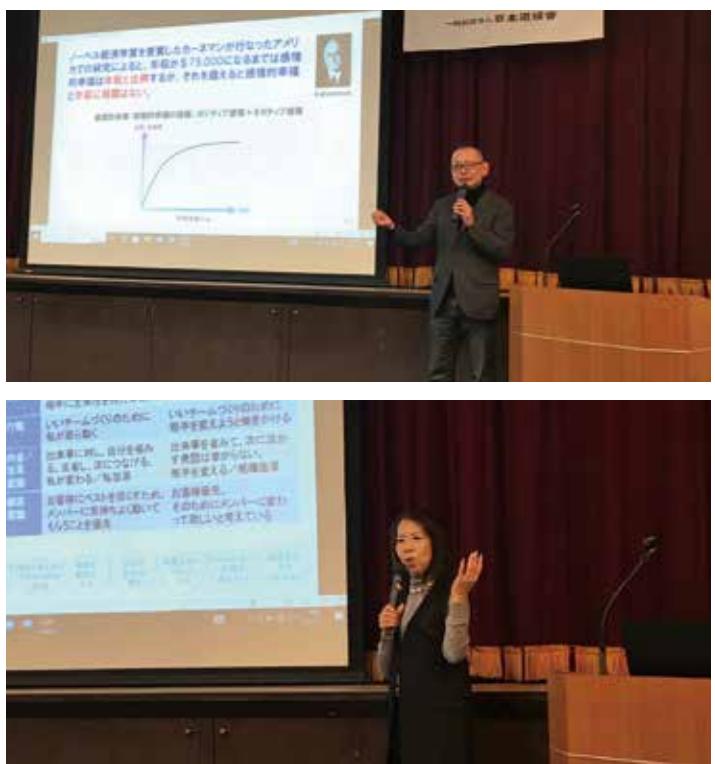
お金やモノ、社会的地位などの地位材ではなく、非地位材型の幸せが、つまり安全などの環境に基づく社会的な良好な状態、健康など身体的な良好

な状態、心的な精神的に良好な状態が長続きをすること。そのための幸せの4つの因子を示していただきました。自己実現と成長のやってみよう因子、つながりと感謝のありがとう因子、前向きと楽観のなんとかなる因子、独立と自分らしさのありのままに因子、この4つをこれから私たちの心のあり方として大事に育てていきたいと思います。

妻のマドカ氏は隆司氏の研究室で学びながら、株式会社ポーラについて調査した「幸せなチームが結果を出す」の発刊をするなど、社会実践に取り組んでいます。ありがとうございます飛び交い、自分で考えて自分で行動するチームの事例をもとに、相手を変えるのではなく自分を変えることの重要性を語っていただきました。

講演会終了後には懇談会があり、お互いを満点と認める前野夫婦を囲み、笑顔溢れる忘年会となりました。

広報委員長 原 拓也



本会報のバックナンバーはホームページをご覧いただけます。

NIHON DOHKEIKAI <http://www.ndk.gr.jp>

一般社団法人

発行：日本道経会

〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1
TEL. (04) 7173-3172 FAX. (04) 7173-3134
E-mail office@ndk.gr.jp

事務局だより

今年に入りあっという間に1月が過ぎてしまったように感じます。会員の皆様も来年度の事業計画を進めている頃かもしれません。日本道経会も来年度は創立25周年です。先人先輩の遺志を継ぎ、しっかりと活動していければと思います。

本部事務局